

2022年5月26日

文化庁委託「日本語教育人材の研修プログラム普及事業 児童生徒【初任】」(R4年度)

公益社団法人日本語教育学会

「子どものための日本語教育研修—子ども初任コース／講師育成コース」 受講者募集

募集期間 2022年6月15日(水)～6月30日(木)

I 研修について

1. 趣旨・目的：

公益社団法人日本語教育学会は、2022年度文化庁事業「日本語教育人材の研修プログラム普及事業」を受託し、外国人児童生徒等に対する日本語教師初任研修（以下、子ども初任コース）、及び研修担当講師の育成研修（以下、講師育成コース）を実施いたします。「子ども初任コース」では、文化審議会国語分科会（2019）「児童生徒に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力」及び「研修における教育内容」に基づき、基礎的な内容を提供します。その目的は、外国人児童生徒等の背景や言語・学習環境、各地の受入れ・指導体制を理解して、キャリア支援や社会参加という視点をもって子どもたちの生活・学習に関連付けて日本語を教えることができ、マイノリティである子どもたちのエスニシティやアイデンティティを考慮した教育・支援を行うことができる人材を育成することです。一方、「講師育成コース」では、文化審議会国語分科会（前掲）に示される「日本語教育コーディネータ／主任教員」の資質・能力に準じて、児童生徒対象の日本語教育に携わる初任教師の研修を企画し、講師として研修を運営できる人材の育成を目的とします。子ども初任コースを、2つの地域（南関東ブロック、中国・四国ブロック）で実施します。講師育成コースは子ども初任コースの両地域の研修に関わって実施します。本学会は本事業で、児童生徒の教育・支援を行う初任日本語教師と、その研修を担う講師人材の育成を通じて、各地域の日本語教育・支援活動に貢献することを目指します。

2 研修実施期間

令和4（2022）年8月1日（月）～令和5（2023）年3月3日（日）

3 実施方法

(1) 概要

①2地域ブロック・3クラスでの実施

次の2地域ブロックで研修を実施します。応募時にはいずれかのブロックを選択してください。

A. 南関東ブロック

B. 中国・四国ブロック

②遠隔による実施

遠隔（以下、オンライン）により研修を行います。「オンデマンドの学習」と「オンライン同時双方向の対面学習（Web会議システムのZoomを利用）」を組み合わせた複合型の学習形態です。なお、実習に関しては、新型コロナの感染状況にもよりますが、教育・支援現場の視察等を実施する

可能性があります。両地域の新型コロナの感染状況、ワクチン接種などの感染予防・防止対策の実施状況に応じて、最終的な実施形態を決定します。

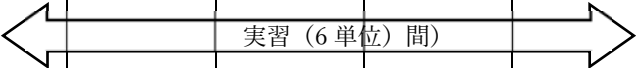
③6つのクールに分けて実施

8月から3月上旬までの6ヶ月余りの研修期間を、6クールに区分して実施します。各クールは、「オンデマンドの動画視聴による学び」「受講者各自の課題の遂行」「スクーリング（オンライン同時双方向対面学習）」で構成されます。この他、「**実習**」を実施します。

(2) スケジュール（子ども初任コース・講師育成コース共通）

①1～6クールの期間・実習時期

＜講師育成コースのスケジュール（目安）＞

クール	オリエンテーション	第1クール	第2クール	第3クール	第4クール	第5クール	第6クール
時期	8月7日(月)	8月	9月	10月	11月	12月	1月
							

②スクーリングの日程

2地域ブロック（3クラス）とも同じ日程で実施します。

両コースの受講者とも、スクーリングと実習の全てに参加することが求められます。

スクーリング等	日程
オリエンテーション	8月7日(日) 初任 10:00-11:00 講師育成 10:00-12:00
スクーリング1	8月20日(土) 13:00-16:00
スクーリング2	9月17日(土) 13:00-16:00
スクーリング3	10月16日(日) 13:00-16:00
スクーリング4	11月12日(土) 13:00-16:00
スクーリング5	12月4日(日) 13:00-16:00
スクーリング6	1月28日(土) 13:00-16:00
実習（集中, 3単位時間分）	1月8日(日) 13:00-16:00 残りの3単位時間分の日程は8月の研修開始時に通知予定。

※実習に関しては原則上記日程で実施しますが、実施形態・内容により変更の可能性があります。

(3) 各コースの研修活動の構成

①子ども初任コース

60単位（講義・演習 54単位＋実習 6単位、1単位時間＝45分）

1) オリエンテーション（1単位）

8月7日（日）10:00-11:00に、2地域ブロックの全受講者を対象に行います。

子ども初任コースの研修内容と実施方法等について説明します。

2) 講義・演習 (53 単位)

1 クールを 9 単位時間とし、オンデマンド学習 (3 単位)・課題の遂行 (3 単位)・スクーリング (=オンライン同時双方向対面学習) (3 単位×5 回+2 単位時間×1 回) で構成します。6 クールで 53 単位となります。

- ・オンデマンド学習では、動画教材による講義 (視聴) を行います。(3 単位時間)
- ・講義後、スクーリングの講師が指定する課題を遂行します。(3 単位時間)
- ・課題提出後、オンラインによる対面同時双方向のスクーリングで、課題の振り返りや発展的学習を行います。(3 単位時間)

3) 実習 (6 単位)

各地域 (ブロック) によって実施・内容・方法は異なります。6 単位時間実施します。

実習の内容・方法の例 (2020, 2021 の例)

- ・動画で、学校・地域の教室における教育・支援の実際の様子を観察
- ・日本語・学習支援教室で実施しているオンライン支援に参加・参観
- ・当該地域の学校・支援教室の参観 (対面)
- ・オンラインで、支援教室で学ぶ子どもたちにインタビュー
- ・オンライン (zoom) で、模擬授業を実施 (学習指導案作成・模擬授業の実施・振り返り) 等

②講師育成コース

60 単位 (講義 18 単位+チューター活動 18 単位+演習 18 単位+実習 (子ども初任コースと同内容) 6 単位, 1 単位時間=45 分)

1) オリエンテーション (2 単位)

8 月 7 日 (日) 10:00-12:00 に実施します。講師育成コースの研修内容と実施方法等について説明します。前半は子ども初任コースのオリエンテーション(1 単位)、後半は講師育成コースのみのオリエンテーション (1 単位) です。

2) 講義 (18 単位)

各クールでオンデマンド学習として動画教材による講義 (視聴) を行います (各クール 3 単位)

3) チューター活動 (18 単位)

子ども初任コースのスクーリングにチューターとして参加します。(各クール 3 単位)

4) チューターセッション (演習) (16 単位)

- ・チューターセッションは、スクーリングの前後に、オンラインでの対面同時双方向、あるいはチャットアプリを利用して実施します。
- ・内容は、子どもの日本語教育において教師に求められる資質・能力、その育成のための研修 (初任研修) の内容構成、研修方法等に関する話し合い、演習を行います。
- ・スクーリングでのチューター活動を振り返り、研修における講師の役割について学びます。

5) 実習への参加 (6 単位)

講師育成コースの受講者の皆さんも、子ども初任コースの受講者と同じ実習を実施します。

4 研修内容（動画教材の内容：シラバス）

子ども初任コース・講師育成コースとも、児童生徒を対象とする日本語教育の基礎的内容に関する講義を受講します。受講方法は、オンデマンドによる動画教材の視聴です。

①子ども初任コース

講義内容に関する課題の提出が求められます。スクーリングでは、受講者が提出した課題をもとに、各地域ブロックにおける子どもの日本語教育・支援の状況等に関する発展的な議論を行います。

<子ども初任コース・講師育成コース 講義シラバス>

	No. 科目	項目	動画 本数
第1クール	1. 外国人児童生徒等の背景・現状・課題（6単位）	①外国人児童生徒等の現状と課題 ②外国人児童生徒等の社会的・文化的背景 ③外国人児童生徒等施策	2
		④地域の現状と課題（外国人集住地域・散在地域） ⑤学習権・不就学 ⑥多文化共生	
	2. 外国人児童生徒等の支援体制とネットワーク（3/6単位）	⑦地方自治体の受け入れ体制 ⑧学校の教育体制 ⑨地域の支援体制	1
第2クール	2. 外国人児童生徒等の支援体制とネットワーク（3/6単位）	⑩地域のリソースと社会的ネットワーク ⑪保護者との連携・協力 ⑫エスニック・コミュニティ	1
		⑬異文化適応 ⑭異文化間能力 ⑮自文化中心主義・文化相対主義 ⑯文化間移動とアイデンティティ ⑰生育環境 ⑱社会化	
第3クール	4. 外国人児童生徒の言語習得と認知発達（6単位）	⑲発達段階と言語習得 ⑳バイリンガリズム ㉑母語・継承語・第二言語	2
		㉒生活言語能力と学習言語能力（特別支援のニーズを含む） ㉓リテラシーの発達 ㉔言語能力の測定（筆記テスト、DLA等）	
	5. 外国人児童生徒等の日本語教育のコースデザイン（3/6単位）	㉕コースデザイン ㉖「特別の教育課程」による日本語指導 ㉗評価の対象と方法	1

第4クール	5. 外国人児童生徒等の日本語教育のコースデザイン (3/6 単位)	㉘初期指導 (サバイバル日本語・日本語の基礎) ㉙中期指導 (技能別日本語) ㉚日本語と内容 (教科等) の統合学習 (JSL カリキュラム等)	1
	6. 外国人児童生徒等の日本語教育の方法と実際 (6/12 単位)	㉛事例分析 ㉜子どもの日本語教育の方法1 (幼児・小学校低中学年の子ども対象) ㉝子どもの日本語教育の方法2 (小学校高学年以上の子ども対象) ㉞教材・教具の活用1 (体験型教材・教具) ㉟教材・教具の活用2 (教科書等の活用・著作権) ㊱教材・教具の活用3 (ICT)	2
第5クール	6. 外国人児童生徒等の日本語教育の方法と実際 (6/12 単位)	㉞子どものための音声指導 ㊱子どものための文字指導 ㊲子どものための文法指導 ㊳子どものための語彙指導 ㊴子どものための文章・談話指導 ㊵言語生活	2
	7. 社会参加のための日本語学習支援 (3/6 単位)	㊶キャリア教育 ㊷ロールモデル ㊸市民性教育	1
第6クール	7. 社会参加のための日本語学習支援 (3/6 単位)	㊹進路選択支援1 (進学) ㊺進路選択支援2 (就労) ㊻社会活動への参加支援	1
	8. 外国人児童生徒等のライフコースと日本語教師の成長 (6 単位)	㊼ライフコース ㊽エンパワーメント ㊾人権・社会的正義・公正さ ㊿実践の共有 ㊿対話と省察 ㊿専門家との連携・協力	2

②講師育成コース

上記の講義 (動画教材) を視聴した後、子ども初任コースのスクーリングにチューターとして参加し、講師育成コーディネータのもとで以下の内容について学びます。

- (1) 日本語教育人材に対する研修の企画・立案
- (2) 日本語教育に関わる国及び地方公共団体の施策
- (3) 教育機関の運営に関する基礎知識
- (4) 在留外国人施策・入国管理制度・教育行政と地域における外国人の出身国の最新動向の把握
- (5) 日本語教育のプログラムデザイン
- (6) 事例研究

- (7) キャリア支援
- (8) 活動と広報

5 担当講師

< 講義担当講師（動画教材） >

池上摩希子（早稲田大学）・市瀬智紀（宮城教育大学）・伊東祐郎（国際教養大学）・内海由美子（山形大学）・金田智子（学習院大学）・川口直巳（愛知教育大学）・河野俊之（横浜国立大学）・齋藤ひろみ（東京学芸大学）・櫻井千穂（大阪大学）・菅原雅枝（愛知教育大学）・武一美（NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ）・田中祐輔（青山学院大学）・中川祐治（大正大学）・中山あおい（大阪教育大学）・浜田麻里（京都教育大学）・原瑞穂（上越教育大学）・松本一子（名古屋柳城女子大学）

< 子ども初任研修担当 >

コーディネータ：和泉元千春（奈良教育大学）・市瀬智紀（宮城教育大学）

講師： A 南関東ブロック 高橋美奈子（琉球大学）・南浦涼介（東京学芸大学）・横溝亮（横浜市立鶴見小学校）

B 中国・四国ブロック 中石ゆうこ（県立広島大学）

< 講師育成コース担当 >

コーディネータ：齋藤ひろみ（東京学芸大学）

河野あかね（つくばインターナショナルスクール）

上記コーディネータ・講師他に、公募による講師2名、アシスタント講師3名（2020年・2021年の講師育成コース修了者）が加わります。

II 受講者の募集について

1 募集人数

①子ども初任コース：60名程度

地域ブロック	南関東	中国・四国
募集人数	40名程度（2クラス）	20名程度（1クラス）

②講師育成コース：10名程度

2. 応募資格と条件

(1) 応募資格

①子ども初任コース

- ・いわゆる「日本語教育の有資格者」で、児童生徒に対する日本語教育の経験が0～3年（初任）の者。または、これに準ずる者（詳しくはお問い合わせください。）
- ・現在、または将来的に当該地域の児童生徒の日本語教育に貢献する意欲がある者。

②講師育成コース

- ・「児童生徒に対する日本語教育の初任研修」の講師として相応しい専門性と経験を有する者。
- ・「児童生徒に対する日本語教育の初任研修」の講師等を勤める可能性があり、現在、または将来的に当該地域の日本語教育に貢献する意欲がある者。

(2) 応募条件

- 1) オンラインの同時双方向対面研修、実習に出席できること。
基本的にはオリエンテーションを含め6回のスクーリング、実習の全てに参加いただきます。
- 2) オンライン上の研修を実施できる環境とスキルを有すること。
Web 会議システム (Zoom) による研修への参加やクラウド上での情報交換のための通信環境については、受講者ご自身で整えていただきます。
- 3) 実施した課題の共有や、スクーリングでの意見交換に積極的に参加すること。
スクーリング・実習では、本名・カメラオンでご参加いただきます。
- 4) 母語、国籍は問いませんが、日本語でのグループでの作業や話し合い等に支障がない程度の日本語の力を有すること。
- 5) 知的財産権、人格権（個人情報守秘や肖像権の配慮等）について理解し、行動すること。
例えば、本研修で提供する著作物の無断流用等は著作権侵害に当たり、認められません。

3. 受講料

受講料は両コースとも、10,000 円です。

遠隔による研修において、受講する上で必要な環境の整備・通信費などは各自のご負担となります。また、実習の一部を実地で行う可能性もありますが、それに係る交通費、必要な文具類などについても自己負担となります。

なお、受講料の支払い方法等については、受講決定後に改めてご連絡します。

4 修了要件・修了証

それぞれのコースに関し、次の要件を満たした研修受講者に修了証を授与します。

①初任子どもコース

- ・研修に 2/3 以上参加していること。
- ・提出課題、及びスクーリングの活動において、目標を概ね達成できていること。
- ・実習（6 単位）に参加して課題を提出していること。

②講師育成コース

- ・研修に 80%以上参加していること。
- ・演習における課題、及びチューターとしての活動において、目標を概ね達成できていること。
- ・実習（6 単位）に参加して課題を提出していること。

5 応募方法

下記の URL より Google フォームに必要事項を記入して、送信してください。

(募集期間：2022年6月15日(水)～6月30日(木))

①子ども初任コース受講申込フォーム

URL <https://forms.gle/L78kxYzm9DSrJX9KA>

②講師育成コース受講申込フォーム

URL <https://forms.gle/i3XspXrkbbGYSg3s7>

定員を超えた場合は、応募時の申請内容をもとに選考を行い、結果を通知します（申請時に申告した連絡先のメール宛）。

6 問い合わせ先

公益社団法人日本語教育学会 「子どものための日本語教育研修事務局」

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会 2F

E-mail: bunka-shonin@nkg.or.jp (担当：奥山)

※ 担当者が在宅勤務等で不在の場合がございますので、お問い合わせはなるべくメールでお送りくださいますようお願いいたします。お問い合わせの回答に少々お時間がかかる場合がございます。ご迷惑をおかけいたしますが、何卒よろしくようお願いいたします。